

たき事なり。

〔菩提心集〕下問、人の子なき親の爲に、七月十五日、盆供といふ事するはいかなる事ぞ。答、目蓮尊者の始て得道の聖と成て、うせ去りにし母の在り處を求むるに、餓鬼の中に生れて、飢せまり、骨皮のかぎりにて居たるを見て、鉢に食ひ物を盛りて食せ給ふ、かれ取りて食はんとする時に、左の手を打おほひて、右の手して飯をつかみて、口によする程に、火に成りてもえあがりぬ、目蓮尊者かなしびて、佛に申し給ひければ、佛のたまふやう、七月十五日は、佛歡喜したまひ、僧自恣する日なり、其日百味飯食の物を鉢に盛りて、衆僧に供養せば、母の苦みを救ひてんと仰せらる、目蓮そのまゝにして、母の苦患を濟ひたり、其をかたぎにて、此世にもするなり、七月の望の日は、佛の喜びたまふ日なり、其故は、もろゝの僧、安居のつとめを、四月の十五日に始めて、九十日の程歩行かで、をのゝ學問おこなひし、戒行つゝ、がなくして居たり、其つとめ常よりも勵む、七月十五日に、日の數足りて、事なく行ひ得たり、まかれれば、佛喜び給ふ、衆僧は自恣といふ行ひして、潔くして、をのゝ外々へ去り趣く、年の夏ごとに、かくまつゝ、數をかさねて、數まさるを上とし、少なきを下にするなり。

〔谷響續集〕孟蘭盆會 有客問曰、俗書中云、七月中元日、謂之孟蘭盆會、目蓮因母陷餓鬼獄中、故設此功德、令諸餓鬼一切得食也、人之祖考不望其登天堂、生極樂世界、而以餓鬼期之乎、弗思甚矣、此事如何。答、是謝在杭○五雜編者之語乎、此翁不詳經意、故作如是說、經意是日供養十方自恣大德衆僧、以此功德力、及與衆僧呪願力、拔父母等惡趣苦、得生天上淨土也、復次施餓鬼功德亦大、足拔其苦趣、徒望其昇天堂、生極樂界、且列八珍、設百味美、安得彼受用而生天上淨土耶、經不云乎、汝雖孝順、聲動天地、神祇邪魔、外道道士、四天王神、亦不能奈何。

〔佛說孟蘭盆經〕佛告目連、十方衆僧、於七月十五日、僧自恣時、當爲七世父母及現在父母、厄難中者、